

## 情報公開用文書（附属市民総合医療センターで実施する医学系研究）

（単施設研究用）

西暦 2020 年 7 月 14 日作成 第 1 版

研究課題名	小児患者における多剤併用療法を行った IgA 腎症と IgA 血管炎の長期予後の検討のための観察研究
研究の対象	当院小児総合医療センターで 2005 年 1 月 1 日からの 2014 年 12 月 31 日までの 10 年間に腎生検により IgA 腎症もしくは IgA 血管炎と診断された患者さんのうち、ステロイドや免疫抑制薬による多剤併用療法を行った、当時 16 歳未満の患者さんが対象です。
研究目的 ・方法	<p>IgA 腎症は世界的に最も多い慢性糸球体腎炎のひとつです。一方 IgA 血管炎はいわゆるアレルギー性紫斑病ですが腎炎の合併は 20-80%とされており、また IgA 血管炎の腎炎の病理所見は IgA 腎症ときわめて類似しており IgA 腎症と IgA 血管炎は共通の病態を有しているとされています。ステロイドや免疫抑制薬による多剤併用療法を小児の IgA 腎症や IgA 血管炎の短期予後はこれまでも報告がなされていますが、こうした多剤併用療法の適応となるような重症の小児 IgA 腎症や IgA 血管炎の長期予後に関しては十分な評価がなされていません。</p> <p>この研究では当科において過去 10 年間に多剤併用療法を行った IgA 腎症と IgA 血管炎患者の治療開始 2 年後と最終観察時の尿所見の経過とそれに影響を与えた因子を検討します。</p>
研究期間	西暦 2020 年 10 月 1 日 ~ 西暦 2021 年 12 月 31 日
研究に用いる 試料・情報 の種類	診療録より以下の情報を収集します。 情報：患者さんの基本情報（年齢、性別、診断名、身長、体重、治療内容、尿検査（尿中蛋白定量、尿中赤血球、尿中クレアチニン）、血液検査（血清クレアチニン、血清アルブミン、血清総蛋白）、腎病理所見 等
<p>本研究に関するご質問・ご相談等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。</p> <p>ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますので下記連絡先まで電話または FAX でお申出下さい。</p> <p>また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはございません。</p>	
<p><b>問合せ先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</b></p> <p>〒232-0024 横浜市南区浦舟町 4-57 横浜市立大学附属市民総合医療センター 小児総合医療センター（研究責任者）稲葉 彩 電話番号：045-261-5656（代表） FAX：045-243-3886</p>	